

大空は
明日へつづく

みんなの学校

武蔵大学小学校のみなさん

監督 長瀬喜伴 脚本・演出 長瀬喜伴 主演 長瀬喜伴 アナウンサー 中野信子 加藤あさ子
藤原1人 藤原2人 藤原3人 藤原4人 藤原5人 藤原6人 藤原7人 藤原8人 藤原9人 藤原10人
藤原11人 藤原12人 藤原13人 藤原14人 藤原15人 藤原16人 藤原17人 藤原18人 藤原19人 藤原20人

2014年10月11日(土) 12時・17時・21時 公開予定

minna-movie.com



ふつうの公立小学校のみんなが英題になる挑戦
不登校も特別支援学級もない 同じ教室で一緒に学ぶ



すべての子供に居場所がある学校を作りたい。

大宮小学校がめざすのは、「不登校ゼロ」。ここでは、特別支援教育の対象となる子ども、自分の気持ちをうまくコントロールできない子ども、みんな同じ教室で学びます。ふつうの公立小学校ですが、開校から6年間、児童と教職員だけでなく、保護者や地域の人らもいっしょになって、誰もが安心できる学校を作りあげてきました。

すぐに教室を飛び出してしまったり、つい友達に暴力をふるってしまったり、みんなで笑ひます。あるとき、「あの子が行くなら大宮には行きたくない」と噂される子が入学しました。「じゃあ、そんな子はどこへ行くの？ そんな子が安心して遊べられるのが地域の学校のはず」と本校副校長、やがて彼は、この学び合で居場所をつみつけ、春には卒業式を迎えます。いまでは、他の学校へ通えなくなった子が次々と大宮小学校に転校してくるようになりました。



学校が変われば、地域が変わる。 そして、社会が変わっていく。



このときくみは、支援が必要なら児童のためだけにやるものではありません。経験の浅い先生やベテランの先生たちが関わり、子供たちのどんな欲求も、それぞれの個性だと捉え、そのことが、周りの子供たちにももたらす、地域にとっても「自分とは違う人」が抱える問題を一人ひとりが思いやる力をつけていきた。

映画は、日々生まれかわるようにつづけていく子供たちの姿の瞬間、ともに学ぶ教職員や保護者との声援、戸惑い、よるこびり、そのすべてを個性を垣さから、ありのままに映しています。そもそも学びとは何でしょう？ そして、あるべき公立教育の姿とは？ 大宮小学校は、そのヒントが隠れています。みなさん、映画を観て「学校を変え」してみませんか。

「賢い！」ここには、あつたままの公立小学校の敷外が、大宮に増したるべく増設している。人間が賢く動物であること、動物ならに増してくる。それにしてもスゴイ記録映画が完成したものである。学校と地域の連携、希望が湧く瞬間である。

尾木直樹（尾木ママ） 著者・監修者・演出者

一緒に学ぶという学習態度を育てられたかったために、こんな言葉もあるんだという言葉を聞けてはいいと思ひました。

2017年 尾木（尾木ママ）

「学校と地域（親子）が協力して児童の居場所を創出する」
大宮小学校の取り組みが、全国の学校に広がっている。そして地域の大人も、子供たちと一緒に学び、育つ機会が増えている。大宮小学校の取り組みが、全国の学校に広がっている。そして地域の大人も、子供たちと一緒に学び、育つ機会が増えている。大宮小学校の取り組みが、全国の学校に広がっている。そして地域の大人も、子供たちと一緒に学び、育つ機会が増えている。

子供たちが学びの場を自分たちでつくりだしていること、それが自分たちから伝わるように、みんなが安心して育つこと、それが学校が地域の中で役割を果たしていること、子供の成長につながる瞬間である。

尾木直樹 著者・監修者・演出者